

エコたま グリーン NEWS



多摩市民環境会議機関紙 第147号(通巻第207号) 2015年4月2日発行 発行人: 清水武志朗 編集人: 井上ひさかず 〒206-0025 多摩市永山 3-9 東永山複合施設 301(事務局員は常駐していません) e-mail qqh43+dd@train.ocn.ne.jp URL www.ecomeetingtama.jp

連光寺湿地, 保安全管理に向けた都との検討進む



3月19日の合同現地調査の様子

数年前に開発業者の手に渡り、土木工事などの作業が始まる寸前にまで迫っていた連光寺6丁目の湿地では、その後、キバサナギガイなどの貴重な陸産貝類が発見されたため、東京都が工事着手をストップさせた。そして、昨年11月に多摩市と稲城市にまたがる約3.3haを「連光寺・若葉台里山保全地域」に指定し、開発業者から湿地と樹林地を都の予算で買い取るようになった。(湿地部は「野生動植物保護地区」にも指定)

3月19日には、東京都環境局自然環境部、都のアドバイザー派遣制度により参加された陸産貝類の専門家である千葉聡さん(東北大学)、多摩市(環境部公園緑地課/環境政策課)、これまで湿地の保全活動を続けてきた連光寺ホテル連絡会の4者(12名)による2回目の現地踏査、意見交換会が行われ、今後の保安全管理計画と具体的な管理手法について話し合われた。



2度の現地踏査と意見交換の場で、最も重要な緊急課題として共通に提起されたのは、「3年前の状態に戻す」こと。その間、湿地のなかに入ることができなかつたため、水路は泥がたまり、田んぼは原型がわからないほどガマに覆われ、湿地の乾燥化が進んでしまっていた。市民ボランティアの皆さんには、まずは水路と田んぼの復元にエネルギー

樹林地からの階段を注いでほしい、ということだった。そのため、観察用および管理用の木道設置とか、竹林の間伐、市境の尾根道沿いの危険木の処置などは、最初の段階で東京都が対処する方向に。なお、湿地部は「野生動植物保護地区」のため、周囲全体を囲いはしないが、フェンス、門扉、ロープ柵などを5カ所に設置する予定。

さて、ここに民間の研究者であるAさんが、自分で調以前に井戸があったところ 査した八王子市の北浅川の支流である板当沢、神奈川県の大和市と、連光寺湿地を比較したレポートがあるので、参考のためにそれを転載させていただくことにする。



(連光寺30種、板当沢37種、大和市28種の発見された陸産貝類の表があるのだが、表そのものは略)

(1) 上記の一覧表は3つの陸産貝類調査を比較できるように並べたものです。「連光寺の陸産貝類調査結果」は調査期間が1日とのこと。「八王子市上恩方の北浅川の支流である板当沢約1kmでの陸産貝類調査」(栗飯原/2006)は実質約2年の調査期間で、調査地は主にスギ・ヒノキに囲まれた小渓流周辺。陸産貝類は主にその溪流沿いの広葉落葉樹林に生息していたものです。なお、大和市全域の貝類調査(栗飯原/1990)は神奈川県で緑地が最も少ない市の例として並べてみました。(2) 「多摩市連光寺6丁目の緑地」について、報告者からみた特徴は次のとおりです。



各地点で入念なチェックが

① 市域全体が市街地となっている多摩市の一面に残った湿地で、1日の調査で30種もの陸貝(かたつむり)と淡水貝が見つかったのは驚異的なこと。生息している種のほとんどは、八王子や町田を調べるとだいたい見つけられそうな陸産貝類ですが、たいへん稀少・貴重なミズコハクガイ(淡水貝)やナタネキバサナギガイ、ヤマトキバサナギガイが生息し、またヒメハリマキビ、オオウエキビ、キビガイハリマキビをはじめ合計7種の微小なベッコウマイマイ科も生息しています。

調査会社が言うとおおり、これらがまとまって生息しているのは都内では唯一、連光寺のこの場所だけでしょう。私は八王子市(川口川沿い、高尾山、上恩方、堀之内、長池公園)や町田市、あきる野市の横沢入などの陸産貝類を調べてきましたが、連光寺のような場所に出会ったことはありません。

② 現在、外来の陸産貝類が大変な勢いで東京周辺各地に生息地を広げていて、在来の陸産貝類を減少させ、地域絶滅させています。しかし、連光寺のこの場所には外来種のノハラナメクジが確認されただけで、町田や八王子に蔓延しているチャコウラナメクジ、コハクガイ、ヒメコハクガイ、トクサオカチョウジガイ、オナジマイマイなどの外来種がほとんど見られないのは不思議です。どうしてここに外来種が入り込む余地がないのか検討してみたいものです。

③ 連光寺の陸産貝類の多くは、殻径が1~5mmの微小貝です。微小貝は移動能力に乏しく、大型の陸産貝類に比べて乾燥や汚染や開発に弱いマイナス面がありますが、一定の環境が揃ってさえいれば、小さな規模の緑地でも生息・繁殖を続けることができるものです。それにしても連光寺のこの地での短期間の調査で、ミズコハクガイ、ナタネキバサナギガイ、ヤマトキバサナギガイなど(下写真)たくさんの微小貝が生息しているのは奇跡的です。湿地での微小貝調査は困難を伴うので、あまり調査がされていない、または見つけにくい、同定しにくいという事情があります。なお、自然界・野外での生態学視点に立った貝類の研究は、ほとんど進んでいません。

(3) 調査会社は動植物各分野の



調査を行ったのであれば、水生生物や両生爬虫類、昆虫、鳥類、哺乳類などのリストもできたら見てみたいものです。とにかく、ぜひ現地を一度見て、陸産貝類の貴重種だけでなく、動植物全体の生態系や環境を見渡してみたいです。(写真は調査日のものが連光寺ホテル連絡会の阿南さん、貝類は同福本さん撮影)

クッキープロジェクト大詰め 門構えが完成



当日の朝、当番の保護者が清掃

多摩第一小学校の児童たちのアイドルとなっている羊の「クッキー」。仔のユキも生まれて元いた小屋が手狭になったため、新居をつくったことまではすでにお知らせしたが、ここに設置する出入り口の門が3月21日の午前中に完成した。

この日の工事に参加したのは、同校の棚橋校長先生、木下副校長先生、そして当会議の清水代表の3人

最初に5cm径ほどの鉄パイプを門のように組み合わせ、



鉄パイプと看板を鉄線で結ぶ

すでに卒業生などが記念に書いた「ふれあい広場」の看板を取り付ける。裏側にした看板に鉄パイプをあてて、鉄線を通して留める場所に印をつけ、そこに孔をあける。

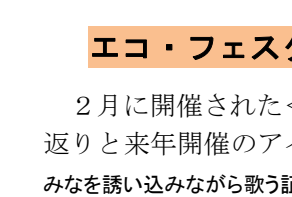
つぎに鉄線を何重にも通して

板と鉄パイプを固定する。固定し終わったら、羊広場の出入り口の内側に立て、左右のバランスを確認したうえで、出入り口の鉄パイプの門を支えている丸太に、これまた何重もの鉄線で鉄パイプを結びつける。

こうして「ふれあい広場」の門は完成。ものの2時間弱だった。

なお、ふれあい広場の周囲には、コナラ2本、クヌギ1本、マテバシイ3本などドングリがなる並木が植えられているが、これは「ふれあい緑化事業」といって、校庭に木を植えたり、木の手入れをしたりして学校の緑を増やす公益社団法人国土緑化機構の補助金によって行われた事業。全国のローソン(コンビニ)の店に設けられた「緑の貯金箱」にお客さんが入れた多くの募金で成り立っている。

組み上がった門を仮に置く



エコ・フェスタの「振り返りの会」開く

2月に開催された「多摩エコ・フェスタ2015」の振り返りと来年開催のアイデアなどを話し合う「振り返りとみなを誘い込みながら歌う証さん

決起の会」が、3月21日の夜に開かれた。関係者にブリリア多摩ニュータウン(諏訪2丁目)の入居者がいて、そのC棟1階にある「パーティールームを使ってみませんか」



という提案があり、むろんみな「一度は入ってみたいところ」なので大賛成。

ここはキッチンつきで食材や飲み物を買ってきて盛り上がった会の終わりに記念撮影運び込めば、あとは自分たちで料理をつくったり自由に使える。(ただ、食事をつくったり、食べ残しを始末したり、食器を洗ったりする係の人はたいへん!) 主催の当会議のスタッフや一部の出展者、市環境部のお歴々、アースビジョン実行委など20数人が顔をそろえた。

なかでも異色だったのは「森のシンガーソングライター」と呼ばれる証(あかし)さんが参加してくれたことだ。彼については本紙前号でもご紹介しているが、市内連光寺に住み、多摩センターの路上演奏者出身。「地球ワット!」が昨年の「エコプロダクツ」で行われた「エコジャパンカップ2014」のグランプリを受賞した。

山梨県の清里にあるKEEP自然学校で環境全般を学び、ふだんは稲城市の南山で、自らのギターで音楽を聞かせながら森のなかの自然を案内したりしているそうだ。

宴もたけなわのころ、その証さんがギターを取り出して「地球ワット!」を歌い、出席者もこれに合わせて歌うという具合で大きな盛り上がりを見せた。

2輪車のリサイクルってどうなってるの?

4輪車の解体、リサイクルなどについてはときどきテレビなどで紹介されることがあるので、ご存知の方もいることだろう。しかし、2輪車となるとほとんど報道などで見かけることはない。3月末に開かれた「第42回東京モーターサイクルショー」(東京ビッグサイト)で、そんな疑問に答えるような展示があったのでご紹介しよう。

まず、ユーザーが「もう乗らない、いらなくなった」と考えた場合、自分のバイクが引取対象車両(参加事業者が製造または輸入し、国内で販売した2輪車)なのかを確認。これは普通の場合はほとんど問題ない。対象外車両の一例として、電動アシストサイクル、バギー車、サイドカー、電動キックスケーター、超ミニカーなど。

また引取基準としては、車体(フレーム)、エンジン、ガソリンタンク、ハンドル、前後輪(ホイール)が一体となっているもの。各パーツがバラバラでは拒否される。

全国に180カ所ある「指定引取場所」にバイクと指定書類を持ち込む場合、必ず廃車手続きを終えてその確認書と一緒に出さなければならない。その時点でまだ登録・届け出されているバイクのリサイクルはできない。

また「廃棄2輪車取扱店」に持ち込む場合は、品質評価(査定)が行われ、リサイクルかリユースかの決定が行われる。受付した廃棄2輪車を取扱店が運搬する場合は、運搬量が必要となるが、リサイクル料金の負担はない。

そこから処理再資源化施設に送られて解体され、破砕、分別などが行われ、再資源化の循環に乗る形になる。2013年度実績のリサイクル率は97.1%とのこと。

→これが1台分の鉄、アルミ、ゴムなど



会場に展示の珍車

